

災害時の共助のために…個別避難計画づくり／桃崎浜自主防災会

- 集落内の合意形成はどうやったか？
年に1回の自主防災支援者会議で説明し、理解してもらって決めています。
- どこにどのように協働？
避難訓練で消防署に道具を貸し出してもらったり、市に講評してもらうこともあります。また、市は各集落で活用できる避難支援プランを平成25年に出しました。
- 国民保護訓練とは？
国籍不明船が漂着し、乗員が集落内に侵入したことを想定しての避難訓練。
- 誰が主導でやっていますか？（地域・行政）
集落の自主防災支援者会議の主導です。
- 自主防災組織の構成はどのようになっているか？
集落役員10人、防災士1人、消防団2人、集落隣組連絡員19人、そのほか支援者らという構成です。
- 自主防災組織の体制は毎年変化はないのか？対応策は？
集落役員の改選が2年に1回あり、新役員には口頭で申し送りをしています。
- 個別避難計画をつくるとなったときの周りの反応は？（協力的だったか？）
- 地区の皆さんの認識や協力はどんな感じ？
- 住民の意識は何ですか？
計画の必要性を感じていて、皆協力的でした。
- 歩けない人をどうやって助けるのか？用具はあるのか？
車いすのほか、集落所有の車いす（2台）・リヤカー（1台）で運びます。
- 寝たきりの人の対応は？
家族が対応することになります。
- 要援護者の把握はどのようにしているか？
区役員会や支援者会議で把握していました。
- 要援護者の個人情報はどのように把握したのか？
年1回全世帯に提出してもらった世帯員名簿から把握し、本人と家族の了解を得て要援護者名簿を作成しました。

- 要援護者の情報はスムーズに収集できたか？
ほぼできていたと思います。
- 個人情報を出すに拒否する住民はいなかったのか？
ほぼ全世帯が協力し、提出してもらっています。(出してもらえない世帯は毎年数件のみ)
- 個人情報の集約、管理を交代する方への対応を聞きたいです。
年1回集落の全世帯の世帯情報を集約しています。役員が交代した場合は引き継ぎます。
- 要援護者の更新は毎年行うのか？
平成28年まで毎年見直しを行っています。
- 誰が誰を支援するのか？どうやって決めましたか？
- 支援グループは近くの人同士？
支援グループはありませんが、基本的に同じ通りのなるべく家が近い人を支援者に割り当てています。年1回支援者会議を開き、そこで相互の了解で決めていました。
- 要援護者と支援担当は公表していますか？
公表していませんが、支援者に名簿を渡しています。
- 要援護者と支援者は日常的にどのように繋がりを持っていますか？
日常的なつながりを考慮して決めたわけではありませんが、近所のため顔見知りの関係です。
- 課題の中の支援者不足についての対策はありますか？
近所で足りないときは、少し離れた人が対応しています。昼間の支援者が不足ぎみなのが課題でした。
- 今後要援護者が増加していく傾向があると思うが対策はあるか？
桃崎浜では施設入所などのために要援護者は減少傾向です。対策は現時点では考えていません。
- 地域で顔の見える関係が築けていますか？
サロン活動や祭りなどで顔を合わせる機会があります。(ただし、全員となると難しいところ)
- 顔の見える関係を作る第一歩は何でしょうか？
出てこない人には、声をかけること。
- どこへ避難するのですか？
集落センターうらの高台が一次避難所。二次避難所は乙にあるきのと交流館です。
- 神社はいざというとき、逃げられるように先人の知恵があると感じるが現代に活かしているところはありますか？
高台にあること。

- 備蓄倉庫は十分なスペースがあるか？
市の補助金で整備したのですが、ほぼ十分なスペースがあります。
- 防災用具の購入は？
ほぼ、市の補助金を活用して購入しています。（寄付もあり）
- この活動でどのくらいの予算が必要か？
- 機材調達にける資金は年額いくらか？
倉庫の補修費として毎年7万円ほどの予算があります。機材購入や防災訓練のための予算は特
にありません。
- 計画はどのくらいの頻度でやっていますか？
支援者会議は年1回やっていました。
- 参加率はどれくらいか？曜日や時間帯でメンバーが変わってくると思うが？
避難訓練の参加率は人数で20%くらい、世帯では半分くらいです。仕事が休みの人が多い日曜
にやっています。
- 若者の参加と支援はどのようになっているか？
消防団としての参加はありますが、少ないです。
- より多くの人々に参加してもらうためにどのような工夫をしているのか？内容。曜日等
防災の日（9/1）に近い9月の第一日曜にやっています。消火栓の訓練や防災士の講評といっ
た、役立つ内容にしています。
- 訓練の回数を増やすことは考えていないか？
現状のままで考えています。
- 訓練に参加された方々の感想等はどうでしたか？
参加してよかった、防災士の指導がためになるといった感想があります。
- 津波の時の避難方法は？車両は？
徒歩。リヤカーは使いますが車は使いません。
- 津波の8分はどうする？
第一波の海岸到達までが8分のところ、訓練では8～11分以内に避難できています。目標は5
分です。
- てんでんこ教育をしていますか？
特にしていません。
- 津波時の支援ができないのはやむをえないか？
まず自分の身を守ることを最優先にすることに変えましたが、やむをえないという考えです。

- 他地区でも同じような体制を作るには、どうしたらいいと思いますか？
①住民との話し合いが先決。②次に役員がきちんと案を提示すること。

- 他の地域自主防災組織の活性化は？実効性の確保は？
年1回でも会議をもつこと。役員が中心になって進めること。